

第682回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2026年4月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「英進館 presents

高校生のじかんスペシャル 卒業2026」

放送日時：3月21日(土)午後3時30分～午後4時30分

◇ その他

KBC テレビ 2025年下期の番組種別の公表報告

2026年4月20日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第682回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2026年4月20日(月) 15時30分～17時00分
2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室
3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	山根	久資
副委員長	森	慎二
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	林田	真心子
委員	松瀬	萌々香
委員	菊池	文隆

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
取締役 報道制作局長	大迫	順平
執行役員 総合編成局長	柴田	高宏
広報室長	原	由美子
報道制作局 コンテンツ戦略部 部長	山田	利宣
KBC MoooV 「高校生のじかん」プロデューサー	石橋	基弘
総合編成局次長 兼 番組審議会事務局長	武藤	礼治
番組審議会事務局 (総合編成局)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組「英進館 presents 高校生のじかんスペシャル 卒業2026」
放送日時：3月21日(土)午後3時30分～午後4時30分
- (2) KBCテレビ 2025年度下期の番組種別の公表報告
- (3) 4月・5月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 3月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 「高校生のじかん」にぴったりな内容だった。「卒業」をテーマに、スポーツ強豪校や閉校になる高校などにしっかり入り込んで撮影しており、とても感動できる内容だった。
 - 多くの高校生の様々な表情に触れることができた。特に、番組をずっと見ているという視聴者には、高校生の成長した姿を見ることができたのではないかと感じた。
 - 誰もが経験する「卒業」には思い出がある人も多いので、高校生に限らず大勢の視聴者が興味を持ったのではないかと感じた。先生や親などの視点があったことも評価できる。
 - ずっと同じ道を歩んできた福岡第一高校バスケット部の兄弟が別の大学に進学するというドラマチックな流れに引き込まれた。1年次のあどけない映像から成長の様子が伝わった。
 - 中村学園女子高校の剣道部が最後の稽古を終えて握手と抱擁を交わす場面は、いろいろな思いが詰まっていることを想像した。高校生と先生の言葉が全て真っすぐに心に響いた。
 - 以前にも番組で取り上げたスポーツ強豪校の高校生の旅立ちを責任をもって伝える姿勢は、地域メディアであるKBCの真骨頂だと感じた。
 - スポーツ強豪校の場面を短くして、63年の歴史に幕を下ろす三井中央高校の話を中心に据えた構成が良かった。とりわけ、高校生が先生に卒業証書を手渡す場面には感動した。
 - 三井中央高校は細部にまで取材されており印象に残った。高校生と先生の距離感が印象的で、学校が大事な場所だったことが伝わった。地域住民などにも取材したことにより、閉校が多角的に取り上げられていたことも評価できる。
 - 三井中央高校には「閉校と卒業」という物語性があった。閉校は誰もが経験するものではないが、その経験から人を思いやる心や成長していく姿が描かれていた点が良かった。
 - 三井中央高校にGACKTさんが訪れた場面は「誰が来るか」ではなく「先生が自分たちのために何かをしてくれた」ことが嬉しかったのだろうなど思った。
 - いずれのエピソードでも、リラックスしてインタビューに応じる高校生の言葉や表情から、その場に流れている空気や関係性が自然に伝わり、誠実な取材姿勢が感じられた。
- などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 三井中央高校の場面は、とても内容が良かっただけに、カット割りが少し早いと感じた。

- 三井中央高校のベテランの先生に対する接し方に「失礼」という声はなかったのか。
- 三井中央高校の卒業式に GACKT さんがサプライズ登場したことはインパクトがあったが、歌を披露するだけではなく、GACKT さんの言葉で直接語りかけてほしかった。
- 「親に贈る感謝の手紙」の場面は、手紙を読む高校生の背景を少し補足してほしかった。どうやって手紙を読む高校生が選ばれたのかという点にも疑問がわいた。
- 「親に贈る感謝の手紙」にナレーションがなかった意図が知りたいと感じた。
- テロップにばらつきを感じた。幅広い視聴者にむけて少し整理してほしかった。
- スタジオに4人もの出演者を配置する必要があったのかと疑問に感じた。
- 若年層の「テレビ離れ」をどう分析し、どんな対策を講じているのかと気になった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 本作は、週1放送している「高校生のじかん」の特別編。毎年3月に卒業を迎える高校生の岐路をお伝えし、高校生の成長をお届けしている。
- 三井中央高校への取材は約半年前から決めていたが、実際の取材は去年12月から今年1月にかけて行った。ほぼ全員とコミュニケーションを図り、数名の生徒に焦点を当てた。
- 三井中央高校では、とても良い素材をたくさん撮影することができたが、尺の都合で細部を詰めたのでカット割りが早くなってしまった。
- ベテランの先生に対する高校生の接し方について、特に苦情は寄せられていない。むしろ、高校生と先生の距離感が最も伝わる素敵な場面だったと思っている。
- 三井中央高校では GACKT さんが来てくれたことが大変喜ばれた。放送ができたということよりも、高校生たちの思い出づくりができたことが最も良かったと思っている。
- 高校生が喜ぶ姿を中心に伝えたかったのでライブの様子は端的に構成したが、GACKT さんは歌の前後に自らの言葉でメッセージを伝えていた。
- レギュラー放送を知らない視聴者も違和感なく見てもらえるように工夫したが、「親に贈る感謝の手紙」は唐突感を与えたかもしれない。
- 「親に贈る感謝の手紙」にナレーションがなかったのは、現場の緊張感を出したかったから。高校生の緊張している様子とそれを聞く親の表情に主眼を置いた。
- 企画ごとに担当したディレクターが違うのでテロップにばらつきが生じ、統一感を欠いた。
- 出演者にはロケに出てもらおうようにシフトしている。出演者が高校生と触れることで、高校生からの支持を得られるようになれば、必然的に番組の人気も高まると考えている。
- 番組は知らなくても、SNSで「高校生のじかん」を知っているという高校生は多いので、SNSの活用に力点を置いている。SNSで接触があった高校生を番組視聴につなげたい。
- テレビに何かと役割を求める風潮もあるが、単に感情に訴えるものがあるだけでも良いのではないか。子どもたちの頑張る姿は世代を問わず人の心を動かすので、本作に限らず、地域で頑張る次世代の姿に引き続きフォーカスを当てたいと考えている。

などの説明をしました。